

婦人関係業務資料 No. 59

沖縄の婦人問題に関する 意識調査

—— 結果報告書 ——

労働省婦人少年局

は し が き

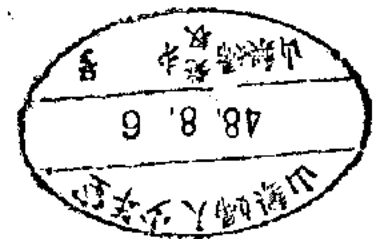
労働省婦人少年局では、婦人の地位向上の見地から従来より売春問題をとりあげ各種実態調査や啓蒙活動を行なってきましたが、昭和47年5月復帰と同時に、沖縄県にも、売春防止法が適用となったのを機として、同県における売春問題を中心に、婦人問題に関する意識をは握し、行政上の参考に資するためこの調査を行ないました。

調査結果が婦人問題に関心ある方々のご参考になれば幸いです。

調査の実施にあたって、ご協力をいただいた方々に厚く御礼申し上げます。

昭和48年6月

労働省婦人少年局



目 次

調査の概況	2
調査結果	3
Ⅰ 調査対象者の状況	3
1. 性別と年齢	3
2. 居住地域	4
3. 配偶関係と同居の家族数	4
4. 職 業	5
Ⅱ 婦人の地位等に関する意識	6
1. 沖縄住民としての関心事	6
2. 女性に対する差別	6
3. 女性の能力の活用	7
4. 知事選挙の投票状況	10
5. 知事や各種議員の言動に対する関心度	11
6. 女性の政治意識	11
Ⅲ 売春問題に関する意識	12
1. 売春に対する意識	12
2. 売春をしていると思われる女性の存否	13
3. 売春をする理由	14
4. 売春防止法について	15
5. 売春の将来に対する見通し	17
6. 売春防止対策	18

調 査 の 概 況

1. 目 的

売春問題を中心に、婦人問題についての意識をは握し、行政上の参考に資することを目的とした。

2. 実施地域

沖縄県那覇市、コザ市のそれぞれ住宅地域及び風俗営業（バー、キャバレー、カフェー、待合、料理店等）の密集地域

3. 調査対象者

20才以上65才未満の男女 1,000名

ただし有効回収数 534

4. 抽出方法

実施地域の市選挙管理委員会の保管する有権者名簿から無作為に抽出した。

5. 調査時期

昭和47年8月～9月

6. 調査方法

沖縄婦人少年室職員及び婦人少年室長の委嘱する調査員による面接法を主とし、一部は通信法により行なった。

7. 調査事項

I 調査対象者の状況

II 婦人の地位等に関する意識

III 売春問題に関する意識

調 査 結 果

1 調査対象者の状況

調査対象者1,000名の性別は、男451名、女549名で、その居住地域は、住宅地域6割、風俗営業密集地域4割となっている。

このうち回収有効数は、534（男234女300）で、調査不能件数が多い。（第1表）これは、一部を通信調査の方法によったことと、住宅地域では他地区へ移動した者が多いこと、また、風俗営業密集地域では、復帰後の営業廃止に伴ない対象者の移動先が不明となっている等の理由による。

第1表 調査対象者・回答者数

(A)

居住地域	男女別	対 象 者 数			回 答 者 数		
		計	男	女	計	男	女
計		1000	451	549	534	234	300
風俗営業密集地域		400	176	224	201	81	120
住 宅 地 域		600	275	325	333	153	180

1. 性別と年齢

回答者を性別にみると、男44%、女56%となっている。

また年令別では、40才未満の者が55%、40才以上の者は45%である。（第2表）

第2表 性別と年令

(B)

男女別	年令別	計	20～39才	40～65才	不 明
総 数		1000 (100.0)	55.1	44.6	0.4
男		451 (45.1)	54.7	44.9	0.4
女		549 (54.9)	55.3	44.3	0.4

2. 居住地域

回答者の居住地域は、那覇市397名、コザ市137名となっている。

このうち、住宅地域に住む者が約6割で、風俗営業密集地域の者が約4割である。(第3表)

第3表 居住地域

居住地域別 地域別	計		風俗営業密集地域	住宅地域
	実数	%		
総数	534	100.0	37.6 %	62.4 %
那覇市	397	100.0	35.3	64.7
コザ市	137	100.0	44.5	55.5

3. 配偶関係と同居の家族数

配偶関係をみると、男性の76%、女性の63%が配偶者がいる。

配偶者のいない者は、男性にくらべ女性の方が多く、特に死別、離別者が多い。(第4表)

また、同居の家族数は、7人以上が2割を超えており、平均家族数は、4.9人である。(第5表)

なお、昭和45年の国勢調査による全国の平均世帯人員は3.69人、同沖縄県の平均世帯人員は、4.27人である。

第4表 配偶関係

事項別 男女別	総数	あり	なし					不明
			小計	未婚	死別	離別	不明	
計	100.0	68.6	29.0 (100.0)	(60.0)	(25.1)	(9.7)	(5.2)	2.4
男	100.0	75.6	21.0 (100.0)	(75.5)	(10.2)	(6.1)	(8.2)	3.4
女	100.0	63.0	35.3 (100.0)	(52.8)	(32.1)	(11.3)	(3.8)	1.7

第5表 同居の家族数

(%)

計	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上
100.0	3.4	9.9	13.3	17.8	19.7	15.5	20.4

4. 職業

職業についてみると、有職者は、65%で、これを男女別にみると、男性は87%、女性は48%が有職者である。

有職者の内訳をみると「勤務している」者が、男性の約7割、女性の53%を占めている。(第6表)

第6表 職業

事項別 男女別	計	あ						な				
		小計	勤務	家業	内職	その他	不明	小計	家事	学生	その他	不明
計	100.0	65.4 (100.0)	(62.5)	(28.1)	(4.3)	(4.0)	(1.1)	34.6 (100.0)	(47.6)	(6.5)	(10.8)	(15.1)
男	100.0	87.2 (100.0)	(49.1)	(26.5)	(1.0)	(4.4)	(1.0)	12.8 (100.0)	(3.3)	(26.7)	(50.0)	(20.0)
女	100.0	48.3 (100.0)	(53.1)	(33.1)	(9.0)	(3.4)	(1.4)	51.7 (100.0)	(86.0)	(2.6)	(33.2)	(14.2)

Ⅱ 婦人の地位等に関する意識

1. 沖縄住民としての関心事

「沖縄に住んでいるあなたにとっていまもっとも大きな問題はどんなことですか」という問に対し、半数以上が「物価問題」をあげており、特に女性の7割以上が、この問題に最も大きな関心を示している。

ついで、「教育問題」(17%)、「就職失業問題」(12%)となっており、「売春問題」と答えた者も4%いる。

なお、その他「基地問題」「青少年の非行問題」「住宅難」等をあげた者も(5%)いる。(第7表)

第7表 沖縄住民としてもっとも大きな問題はどんなことか

(%)

事項別 男女別	総数	教育問題	物価問題	売春問題	就職・ 失業問題	その他
計	100.0	16.9	65.7	4.3	11.8	5.4
男	100.0	22.2	54.7	5.1	16.2	5.1
女	100.0	12.7	74.3	3.7	8.3	5.7

(2つ以上答えた者があるため各項目の計は100%をこえる)

2. 女性に対する差別

「あなたは、女性に対する差別があると思いますか」という問に対して、「差別がある」と答えた者は、男女とも3割近い。

また約3割の者が「わからない」と答えている。女性に対する「差別がない」と思っている者(39%)は、「差別がある」と答えた者(28%)より多く、特に男性は「差別がない」と思う者の割合が高い。(第8表)

「差別があるとしたらどんなことですか」という問に対しては、「職場がない」「低賃金である」「管理職への昇進の機会

が非常に少ない」「能力発揮の場がない」等職業に関するものをあげている者が多い。

また、「何かにつけ女だからとばかにされる」「財産の相続は、長男のみにされる」等風俗習慣としての差別が残っているという者、「家事、育児にしばられ自由がない」という者、このほか、「あらゆる面で差別されている」という者や、女性差別の典型として売春問題を例にあげ、「女性故にみじめな人生をおくっている人が沖縄には、まだまだ多い」という者もいる。

第8表 女性に対する差別があると思うか

(%)

事項別 男 女 年 別		計	ある	ない	わからない	不明
計		100.0	28.3	39.0	31.8	0.9
男	小 計	100.0	28.2	43.2	27.8	0.8
	20～39才	100.0	30.5	40.6	28.1	0.8
	40～65才	100.0	25.7	46.7	27.6	—
女	小 計	100.0	28.3	35.7	35.0	1.0
	20～39才	100.0	27.7	36.8	33.7	1.8
	40～65才	100.0	29.3	34.6	36.1	—

3. 女性の能力の活用

「女性の能力は、男性に比べて、生かされていないという見方がありますが、あなたはどう思いますか」という問に対し、「女性の能力は、生かされている」と答えた者がわずか16%で、「生かされていない」と答えた者は、6割を超えている。

「生かされていない」と答えた者は、女性に多く(67%)、とくに40才未満の層では、77%である。

生かされていない理由として、約半数が、「女性自身の努力

が足りない」とことと、「職場や家庭での理解が十分でない」とことをあげている。

とくに、40才以上の男性の6割以上が、「女性自身の努力が足りない」と考えているが、40才未満の男性と、40才以上の女性の過半数は、「職場や家庭での女性の理解が十分でない」ことをその理由としてあげている。

ちなみに昭和45年大阪で開催された万国博覧会の会期中の「婦人の日」(4月14日)に日本館に入場した成人男女1万名を対象に当局が行なったアンケート調査(以下「アンケート調査」という。)をみると、本調査とほぼ同様の傾向を示している。(第9表)

第9表 女性の能力は男性にくらべて生かされていないという見方に対してどう思うか (例)

事 項 別	男女別 年令別	沖 縄						全 国 ※		
		男			女			計	男	女
		計	20~39才	40~65才	計	20~39才	40~65才			
総 数		1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
女性の能力は生かされている		157	148	248	127	109	143	155	183	124
小 計		616 (1000)	524 (1000)	485 (1000)	673 (1000)	721 (1000)	556 (1000)	618 (1000)	600 (1000)	653 (1000)
女性自身の努力が足りない		480 (480)	447 (447)	627 (627)	455 (455)	477 (477)	419 (419)	510 (510)	557 (557)	456 (456)
職場や家庭での理解が十分でない		477 (477)	539 (539)	373 (373)	480 (480)	445 (445)	541 (541)	415 (415)	375 (375)	463 (463)
その他の		55 (55)	26 (26)	20 (20)	74 (74)	78 (78)	68 (68)	63 (63)	51 (51)	74 (74)
不明		12 (12)	13 (13)	—	15 (15)	8 (8)	27 (27)	12 (12)	17 (17)	07 (07)
わからない		219	244	242	200	120	301	89	91	87
不明		08	17	19	—	—	—	139	126	136

(女性の能力は生かされていない理由は、二項目以上答えた者があつたため各項目の計は、100%をこえる)

※ 全国について 資料出所

労働省婦人少年局「婦人週間アンケート結果報告」昭和45年

4. 知事選挙の投票状況

「あなたは、先日行なわれた知事選挙には、投票しましたか」という問いに対して、9割以上が「投票した」と答えている。

とくに女性の投票率は93%、男性のそれを上廻っている。

投票した人の選び方については、その9割近くが、自分一人の考えで選んでいる(88%)。

これを、男女別にみると、自分一人の考えで選んだのは、男性の92%に対し、女性は、84%と若干低い。

ちなみに昭和38年4月の第五回統一地方選挙及び昭和43年7月第8回参議院議員通常選挙をはじめとして、ここ数年来各選挙において女性の投票率は、男性のそれを上廻っている。第7回統一地方選挙(昭和46年4月)の投票率をみても男性にくらべ女性の方が各選挙において高く、うち知事選については、男性の71%に対し、女性は73%となっている。(自治省調べ)

またアンケート調査により、第32回衆議院議員総選挙で、投票した人の選び方を、男女別にみると、自分ひとりの考えで投票した者は、男性(91%)にくらべ、女性(86%)の方が少なくなっており、本調査は、これと同様の傾向を示している。(第10表)

第10表 先日行なわれた選挙では投票したか (%)

事項別		沖縄県知事選挙			第32回衆議院議員総選挙※		
		計	男	女	計	男	女
総 数		1000	1000	1000	1000	1000	1000
投 票 し た		908 (100.0)	880 (100.0)	930 (100.0)	773 (100.0)	795 (100.0)	756 (100.0)
投票した方の 選び方	自分ひとりの考えで	(87.6)	(92.2)	(84.2)	(88.4)	(91.2)	(85.6)
	ひとと話し合つて	(10.1)	(7.3)	(12.2)	(7.7)	(5.3)	(10.3)
	ひとのすすめたとおりにした	(1.7)	(0.5)	(2.5)	(1.5)	(0.8)	(2.3)
	不 明	(0.6)	—	(1.1)	(2.4)	(2.6)	(1.8)
投票しなかつた		92	120	70	82	78	90
その時は選挙権がなかつた		—	—	—	24	24	25
不 明		—	—	—	121	103	129

※資料出所：労働省婦人少年局「婦人週間アンケート結果報告」昭和45年

5. 知事や各種議員の言動に対する関心度

「自分の選んだ知事や各種議員の言動に注意していますか」という問いに対し7割以上が注意していると答えている。すなわち「いつもよく注意している」者は31%、「たまには、注意している」者は47%である。

女性は、「たまには注意している」者と「いつもよく注意している」者とを合わせ75%が注意をしているが、男性の82%に比べるとその率は低い。

なお、これについてもアンケート調査の結果とほぼ同様の傾向を示している。(第11表)

第11表 自分が選んだ知事や各種議員の言動に注意しているか (%)

	事項別 男女別	計	いつもよく 注意している	たまには注 意している	注意してい ない	不 明
沖 縄	計	100.0	30.5	47.4	21.9	0.2
	男	100.0	38.5	43.6	17.5	0.4
	女	100.0	24.3	50.4	25.3	—
全 国 ※	計	100.0	34.2	36.6	10.3	18.9
	男	100.0	43.8	32.7	8.1	15.4
	女	100.0	23.1	41.8	13.3	21.8

※全国について 資料出所：労働省婦人少年局「婦人週間アンケート結果報告」昭和45年

6. 女性の政治意識

「沖縄では女性の政治に対する関心は高いと思いますか」という問いに対し、男女とも半数近く(48%)が「低い」といっている。「高い」と思うのは、男性の28%、女性の20%にすぎない。

なお、アンケート調査結果によると、女性の政治意識が「高い」という者は、わずか13%に対し、「低い」という者が、

6割近い。(第12表)

第12表 女性の政治に対する関心は 高いと思うか (例)

事項別 男女別		計	高い	低い	わからない	不明
沖縄	計	100.0	23.4	48.1	27.7	0.8
	男	100.0	28.2	48.3	23.1	0.4
	女	100.0	19.7	48.0	31.3	1.0
全国※	計	100.0	13.1	57.1	14.1	15.7
	男	100.0	14.0	60.0	11.8	14.3
	女	100.0	11.7	55.3	17.0	16.0

※全国について 資料出所：労働省婦人少年局「婦人週間アンケート結果報告」昭和45年

Ⅲ 売春問題に関する意識書

1. 売春に対する意識

「売春についてどう思いますか」という問いに対して「よくないことなのでなくすべきだ」という者が全体の78%となり、特に女性及び住宅地域の者は、売春を否定する者が多い。

しかし、これに対し、「経済的に苦しければやむをえない」という者(13%)及び「売春は必要なので認めた方がよい」という者(6%)は、あわせて、2割近くあり、その他の中には「よいとは思わないが、売春がなくなると、外人による婦女暴行が多くなるので心配だ」という意見もみられた。

特に風俗営業密集地域では、「経済的に苦しければやむをえない」及び「売春は必要なので認めた方がよい」と答えた者が3割近くいる。(第13表)

第13表 売春についてどう思うか (例)

事項別 男女別 年令別 居地 住宅別	計	よくないこと なのでなく すべきだ	経済的に苦 しければや むをえない	売春は必要 なので認め た方がよい	その他	不明
計	100.0	77.5	12.9	5.6	3.4	0.7
男女別	男	73.9	13.2	7.3	4.3	1.3
	女	80.3	12.7	4.3	2.7	0.3
居地	風俗営業密集地域	67.7	21.4	6.9	3.0	1.0
住宅別	住宅地域	83.5	7.8	4.8	3.6	0.6
年令別	20~39才	78.2	13.6	4.1	3.1	1.0
	40~65才	76.9	11.8	7.7	3.8	0.4
	不明	50.0	50.0	—	—	—

2. 売春をしていると思われる女性の存否

「あなたのまわりに売春をしていると思われる女性がありますか」という問いに対し、「いる」と答えた者は17%あり、これを居住地別にみると、風俗営業密集地域では、3割以上で、住宅地域(6%)よりはるかに多い。

そのうち、風俗営業密集地域では、「近所の人」(52%)「その他の知人」(49%)が、それぞれ約半数をしめており、住宅地域では、その6割以上が、「その他の知人」となっている。(第14表)

第14表 まわりに売春をしていると思われる女性がいるか (例)

事項別	地域別	計	風俗営業密集地域	住宅地域
計		100.0	100.0	100.0
い		16.5 (100.0)	33.3 (100.0)	6.3 (100.0)
あなたとの関係	親せきの人	(3.4)	(3.0)	(4.8)
	友だち	(9.1)	(6.0)	(19.0)
	近所の人	(43.2)	(52.2)	(14.3)
	その他の知人	(52.3)	(49.3)	(61.9)
	不明	(1.1)	(1.5)	—
いない		83.1	65.7	93.7
不明		0.4	1.0	—

3. 売春をする理由

自分のまわりに売春をしていると思われる女性がいる者について、「その人たちが売春をする主な理由は、何だと思えますか」という問に対し、「経済的理由」をあげる者が過半数で、これに家族の病気とか母子家庭等経済的理由につながると思われる、「家庭の事情」を加えると8割近くとなり注目される。

この他「本人の性格」と思う者も3割近く、また「売春を強要する人がついている」と思っている者も2割以上に及んでいる。(第15表)

第15表 その人たちが売春をする主な理由は何だと思
うか (例)

理由別 男女別	計	本人の 性格	経済的 理由	家庭の 事情	売春を強要 する人がつ いている	その他 の理由	わから ない	不 明
計	1000	28.5	55.8	21.9	22.3	2.1	14.8	1.1
男	1000	31.2	53.4	19.2	24.8	3.0	13.7	2.1
女	1000	26.3	57.7	24.0	20.3	1.3	15.7	0.3

(多答式のため各項の計は、100%をこえる)

ちなみに昭和36年全国の満20才以上60才未満の男女2900名を対象に行なった「風紀についての意識調査」結果報告から、売春をする主な理由をどのように考えているかをみると、次の表のとおり「経済的理由」をあげている者が58%で、本調査と同様に、最も大きな原因となっている。

しかし「売春を強要する人がついている」は、わずか6%となっている。

○ どういう理由で売春をするようになったと思うか (例)

総 数	本人の性格	本人の欠陥	経済的理由	売春を強要 する人がつ いている	その他	わからない	無回答
100	32	9	58	6	3	12	1

(2項目以上答えた者があるため各項目の計は100%をこえる)

資料出所：労働省婦人少年局「風紀についての意識」

昭和36年

また、昭和31年売春防止法施行直前に全国の特飲街(いわゆる赤線地域)の売春婦1313名を対象に行なった「売春婦の転落原因と更生の問題」についての実態調査結果報告によると、本人並びに親許が語った転落(売春婦となった)事情は、やはり「経済的理由」が8割以上をしめ、最も大きな原因としてあげられている。

○ 転 落 原 因

(例)

総 数	本人に問 題があっ て	経済的理 由によっ て	家庭に問 題があっ て	売春婦にな ることを強 要されて	甘言にの せられて	不 明
1000	24.0	82.4	9.9	6.3	3.2	0.7

(1人につき理由が2つ以上あった場合は、それぞれ該当欄に算入したため、合計は、100%をこえる)

資料出所：労働省婦人少年局「売春婦の転落原因
と更生の問題」昭和33年

4. 売春防止法について

(1) 「売春防止法を知っていますか」という問に対しては、約8割の者が「知っている」と答えている。知った方法については、ほとんどの者が、「テレビ、ラジオ、新聞」等マスコミを介している(90

「知らない」者は、約2割だが、男性より女性の方が、又40才未満の者より、40才以上の者の方がそれぞれ割合が高くなっている。

なお、ここでは売春防止法の内容ではなく、法の施行についての知識を聞いたものである。(第16表)

第16表 売春防止法を知っているか

(例)

事 項 別	計	男 女 別		年 令 別		
		男	女	20~39才	40~64才	不 明
計	1000	1000	1000	1000	1000	1000
知 っ て い る	792 (1000)	863 (1000)	737 (1000)	847 (1000)	727 (1000)	500 (1000)
知 っ た 方 法	テレビ・ラジオ・新聞	(90.1)	(93.1)	(87.3)	(92.4)	(86.7)
	ビラやちらして	(2.6)	(2.5)	(2.7)	(2.0)	(3.5)
	会 合 で	(2.4)	(2.5)	(2.3)	(0.8)	(4.6)
	人のはなしで	(2.6)	(0.5)	(4.5)	(1.6)	(3.5)
	そ の 他	(0.2)	(0.5)	—	—	(0.6)
不 明	(4.7)	(5.0)	(4.5)	(4.8)	(4.6)	—
知 ら な い	208	137	263	153	273	500

(知った方法については、二項目以上答えた者が
あるため各項目の計は、1000名をこえる)

なお、法施行後4年たった時点で行なわれた、前記「風紀についての意識調査」によると、売春防止法は殆どの者が知っている(男性98%、女性93%)。

○ 売春防止法を知っているか

事 項 別	男 女 別	男	女
総 数		100	100
知 っ て い る		98	93
知 ら な い		2	7

資料出所：労働省婦人少年局「風紀についての意識」昭和36年

- (2) 売春防止法を知っていると答えた者について、「売春防止法をどう思いますか」という問に対し、「売春をなくすために必要だ」という者が、約7割おり、「あっても効果があると思えない」という者は、男性の20%、女性の12%となっている。「あっても効果があると思えない」という理由としては、「経

済的理由から売春はなくなる」「やり方が変わるだけで取締りが困難だから」という意見が多い。

この他「政府の保護更生対策が弱い」「法の正しい趣旨が普及されていない」「現在の環境がひどすぎて無意味である」「基地がある限り効果はない」「法が施行され10年以上たつ本土にも売春がないわけではない」等さまざまな理由をあげている。(第17表)

第17表 売春防止法をどう思うか

(例)

事 項 別	計	男 女 別		居 住 地 別		年 令 別		
		男	女	風俗営業 密集地域	住宅地域	20~39才	40~64才	不 明
計	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
売春をなくすために必要だ。	700	673	724	673	719	683	722	1000
あっても効果があると思えない。	158	203	118	149	165	173	139	—
そ の 他	14	25	05	17	12	16	12	—
わからない。	130	99	158	161	108	132	127	—

5. 売春の将来に対する見通し

「売春は、今後どうなると思いますか」という問に対しては、「なくなる」「少なくなる」との希望的な観測をしている者は、過半数おり、男女別にみると男性は女性よりその割合が高く、また居住地別にみると住宅地域の者は風俗営業密集地域の者よりその割合が高くなっている。

また、「ふえる」と答えた者は4%、「わからない」と答えた者も一割以上みられた。

ふえる理由として、「物価高で生活が苦しいから」「もぐり業者がいるから」「暴力団がいるから」「社会の風潮だから」「観光化されるから」等と答えている。(第18表)

第18表 売春は今後どうなると思うか

(%)

男女・居住地・年令別 事項別	計	男女別		居住地別		年令別		
		男	女	風俗営業 密集地域	住宅地域	20~39才	40~65才	不明
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
なくなる	4.3	4.3	4.3	5.0	3.9	3.1	5.9	—
少なくなる	57.5	64.5	52.0	49.7	62.2	59.2	55.9	—
ふえる	3.5	3.0	4.0	3.5	3.6	1.7	5.5	50.0
かわらない	13.3	13.2	13.4	13.4	13.2	16.0	9.6	50.0
わからない	21.2	15.0	26.0	27.9	17.1	19.7	23.1	—
不明	0.2	—	0.3	0.5	—	0.3	—	—

なお、前記「風紀についての意識調査」によると、売春の将来に対する見通しは、「なくなる」「少なくなる」との希望的な観測は、少ない（男性26%、女性24%）。また「ふえる」と答えたものは、男性の23%、女性の16%と多く、「かわらない」と答えた者も、男女とも4割前後と多くなっている。

○売春をしたり、その相手方になる行為は今後なくなると
思うか (%)

男女別 事項別	男	女
総 数	100	100
なくなる	1	1
少なくなる	25	23
ふえる	23	16
かわらない	41	37
わからない	10	23

資料出所：労働省婦人少年局「風紀についての意識」昭和36年

6. 売春防止対策

「売春をなくすためには、どんなことが必要だと思いますか」という問いに対しては、「社会保障制度を充実させる」と答えた

者が最も多く6割近くになっており、これは男女別、居住地別、年令別にかかわらない。

また、「取締りを強化する」（44%）、「経済的に豊かになる」（25%）、「人権尊重の思想を徹底させる」（22%）「健全な男女関係思想を徹底させる」（16%）等がこれにつづいている。

その他の中には「職業補導をする」「売春防止法の趣旨を徹底させる」「本人の自覚を促す」等のほか、「基地を撤去し、外人の立入をなくすことが必要」「何をしても仕方がない」という悲観的な意見まで、さまざまである。（第19表）

第19表 売春をなくすためには、どんなことが必要か (%)

男女・居住地・年令別 事項別	計	男女別		居住地別		年令別		
		男	女	風俗営業 密集地域	住宅地域	20~39才	40~65才	不明
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
取締りを強化する	43.8	44.9	43.0	40.3	45.9	45.9	41.6	—
経済的に豊かになる	25.3	22.2	27.7	30.3	22.2	19.7	31.9	50.0
人権尊重の思想徹底	21.5	25.2	18.7	20.9	21.9	25.2	17.2	—
健全な男女関係思想の徹底	15.5	15.8	15.3	14.4	16.2	17.3	13.4	—
社会保険制度を充実させる	58.2	58.1	58.3	55.7	59.8	58.5	58.4	—
そ の 他	4.5	6.4	3.0	4.5	4.5	4.1	4.6	50.0
不明	0.4	—	0.7	—	0.6	0.3	0.4	—

（多答式のため各項の計は、100%をこえる）

婦人問題に関する意識調査

労働省婦人少年局

地点番号	対象者番号	調査月日	調査員氏名	点検者氏名
------	-------	------	-------	-------

私は労働省から依頼されてまいりました。労働省では、婦人のしあわせに關係のあるいろいろな問題についての調査研究や、啓発活動を行なっていますが、このたび神繩における婦人問題などについての調査をすることになりました。お忙しいところ恐縮ですが、次の質問にお答えください。

1. 属性等について

1. 性別	① 男	② 女	2. 配偶者	① 有	② 無→未婚・死別・離別
3. 職 業	① 勤めている ある→ 家業をしている 内職をしている その他 家事 なし→ 学生 その他	4. 年 令	① 20才～29才 ② 30才～39才 ③ 40才～49才 ④ 50才～59才 ⑤ 60才以上	5. 同居の家族()人	配偶者(夫又は妻) 父 母 人 娘 息子 人 兄弟 人 姉妹 人 その他 人

2. 神繩に住んでいるあなたにとっていまもっとも大きな問題はどんなことですか。

- イ 教育問題
- ロ 物価問題
- ハ 売春問題
- ニ 就職(失業)問題
- ホ その他

4. 女性の能力は、男性にくらべて生かされていないという見方がありますが、あなたはどう思いますか。

- 1 女性の能力は生かされている
(例えばどんなところでですか)

- ロ 女性の能力は生かされていない
理由は ①女性自身の努力が足りない
②職場や家庭での女性への理解が十分でない
③その他
ハ わからない

3. あなたは女性に対する差別はあると思いますか。

- イ ある
それはどんなことですか

5. あなたは、先日行なわれた知事選には投票しましたか。

- 1 投票した
 - ①自分ひとりの考えで選んだ
 - ②ひとと話しあって選んだ
 - ③ひとのすすめたとおりにした
 それは誰ですか
 - 友人・知人
 - 家族
 - 門中
 - その他

- ロ ない
- ハ わからない

- ロ 投票しなかった
- ハ その時は選挙権がなかった

6. 自分が選んだ知事や各種議員の言動に注意していますか。

- イ いつもよく注意している
- ロ たまに注意している
- ハ 注意していない

7. 沖縄では、女性の政治に対する関心は高いと思いますか。

- イ 高い
- ロ 低い
- ハ わからない

8. 売春についてどう思いますか。

- イ よくないことなのでなくすべきだ
- ロ 経済的に苦しければやむをえない
- ハ 売春は必要なので認めた方がよい
- ニ その他

9. あなたのまわりに売春をしていると思われる女性はいますか。

それはどのような人ですか

- イ いる→
 - 親せきの人
 - 友だち
 - 近所の人
 - その他の知人
- ロ いない

10. その人たちが売春をする主な理由は何だと思いますか。(MA)

- イ 本人の性格
- ロ 経済的理由
- ハ 家庭の事情(経済的な理由以外の)
- ニ 売春を強要する人がついている
- ホ その他の理由

11. 売春防止法を知っていますか。

- イ 知っている(テレビ・ラジオ・新聞等によって)
 - ビラやチラシで
 - 会合で
 - ひとの話で
 - その他
- ロ 知らない

12. 売春防止法をどう思いますか。

- イ 売春をなくすために必要だ
- ロ あっても効果があるとは思えない
- ニ それはなぜか

ハ その他

ニ わからない

13. 売春は今後どうなると思いますか。

- イ なくなる
- ロ 少なくなる
- ハ ふえる
- ニ なぜですか

14. 売春をなくすためには、今後どんなことが必要だと思いますか。(MA)

- イ 取締を強化する
- ロ 経済的に豊かになる
- ハ 人権尊重の思想を徹底させる
- ニ 健全な男女関係思想を徹底させる
- ホ 社会保障制度を充実させる
- ハ その他

調査員所見